



説明をして感じたこと

- 現在の患者さんは、がん登録の恩恵を受けられない可能性もあるが、好意的な印象
- いつかこの病気で命が絶たれるのであれば、私は力になりたいと強く思います

おわりに

- がん登録の認知度は非常に低く、積極的な啓発活動は必要
- 個人情報漏洩に関する不安が強く、ハードルが高い印象
- 病院でがん登録についてのビデオやパンフレット等を用意することは、がん登録についての認知度向上に有効と思われる

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）
（総括（分担））研究報告書

課題 がん診療データベースシステムの開発と運用

分担研究者 沼崎 穂高 大阪大学大学院医学系研究科 助教

研究要旨

正確で詳細ながん診療データを保管・利用可能ながん診療（診療科）データベースシステムの構築と運用を行い、個々の施設データの集合体である全国データへの連携を検討した。開発したシステムは診断情報、放射線治療情報、内科情報、外科情報、予後情報を網羅したデータベースシステムであり、院内がん登録や臓器別がん登録とのデータ連携も可能となっている。

A. 研究目的

がん診療において、正確で詳細ながん診療データを保管・利用可能ながん診療（診療科）データベースシステムの構築と運用を目的とする。

B. 研究方法

臓器横断的ながん治療を行う放射線治療部門の情報系の整備を行う。

- ・ 放射線治療部門データベースシステムの改訂と公開
本研究班と日本放射線腫瘍学会（Japanese Society for Therapeutic Radiology and Oncology, 以降 JASTRO）データベース委員会の連携の下で構築した Japanese National Cancer Database（以降 JNCDB）を利用施設の意見を反映して改訂を重ね、公開する。
- ・ 放射線治療施設構造調査の Web 登録システムの構築と公開
JASTRO が学会事業として 2 年毎に行っている全国放射線治療実態調査を Web 登録に移行するため、本研究班が連携して Web データベースシステムの構築を行う。

（倫理面への配慮）

本年度の研究はデータベースシステムの構築を目的としており、現段階で倫理面への配慮は必要としない。

C. 研究結果

- ・ 放射線治療部門データベースシステムの改訂と公開

JNCDB は JASTRO ホームページ (<http://www.jastro.jp/>) で平成 19 年度から公開している。これまで公開していた JNCDB は JASTRO が以前に構築・公開し、全国登録を行っていた放射線腫瘍学広域データベース（Radiation Oncology Greater Area Database, 以降 ROGAD）に改訂を加えた疾患共通の基本データベースであった。本年度は本研究班でフォーマットを定義し、Web データベースシステムとして構築した疾患固有部分の各論（乳癌、子宮頸癌、食道癌、肺癌、前立腺癌）データベースを FileMaker に移行し、上記基本データベースにリンクさせた。これにより、基本+各論の 2 重構造のデータベースシステムに拡張した。JASTRO ホームページでの公開サイクルは以下の通りである。

2009/06/11 Version 3.0 公開

2009/11/24 Version 3.2 公開

以前のバージョンから新しいバージョンへのデータインポート機能も付加している。

それぞれバージョンの公開 Web ページの述べ閲覧数は下に示した通りである。

Version 3.0: 591 回

Version 3.2: 933 回

（2010/02/18 日現在）

- ・放射線治療施設構造調査のWeb登録システムの構築と公開

Web登録システムはASP (Active Server Pages) を利用して構築した。施設IDとパスワードによるアクセス制限をかけ、さらにユーザーとWebサーバ間の通信はSSL (Secure Socket Layer) により暗号化し、セキュリティを強化した。

データ登録者の負担軽減のため次年度以降の登録には過去の登録データを参照・移行できる機能を付加した。さらに、今年度のデータ集計終了後は同サイトで自施設のデータと全国データを比較できる解析結果表示機能を付加した。

2010年1月15日に公開し、Web登録を開始した。2010/02/18日現在、173施設がデータ登録を行っている。

D. 考察

本研究班で構築したJNCDBは放射線治療情報に留まらず、診断情報、化学療法等の内科情報、手術等の外科情報、再発、有害事象、2次発がん等の予後情報も網羅しており、施設の診療科データベースとして利用できる仕組みとなっている。さらに放射線治療が重要な役割を示す5疾患（乳癌、子宮頸癌、食道癌、肺癌、前立腺癌）の各論データベースに関しては、同疾患の臓器別がん登録の登録項目を網羅した形となっており、JNCDBにデータを入力したものは各学会が運営している臓器別がん登録に提出できるデータとなっている。また、個人情報部分は、厚生労働省が標準化を進めている「院内がん登録」の標準登録様式と一致させているため、施設内でのデータ連携も可能となっている。

がん診療の質は「Structure (施設構造)」、「Process (診療過程)」、「Outcome (治療成績)」の3つの要素から評価されるべきである。本研究班でWeb登録システムの構築したJASTROの構造調査は放射線治療施設の構造データを収集しており、データ回収率9割を超える全数調査に近いもので、データの信頼性が極めて高い。

JNCDBが放射線治療分野の臓器別がん登録として全国データを収集するようになり、JASTROの構造調査データと連携することで、日本だけに留まらず、世界でも類を見ないがん診療データベースシステムとなり得る。

E. 結論

がん診療において、正確で詳細ながん診療データを保管・利用可能ながん診療（診療科）データベースシステムとしてJNCDB及びJASTRO構造調査Web登録システムを構築・公開した。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Ide H., Ozawa S., Matsubara H., Saito T., Shinoda M., Tachimori Y., Tanaka O., Udagawa H., Yamana H., Teshima T., Numasaki H., and J. P. Barron. Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2000, *Esophagus*, 6 (1), 27-47, 2009.

佐々木良平, 沼崎穂高, 西尾禎治, 福田晴行, 芦野靖夫, 大西洋, 中村和正, 永田靖, 手島昭樹. 第4回JASTRO将来計画セミナー報告 JASTROの視点から考える「文部科学省・がんプロフェッショナル養成プラン」-All Japanとして, "がんプロ"実施5年間でどのように取り組み, 如何に活用できるか? *日放腫会誌*, 21 (1), 19-25, 2009.

寺原敦朗, 沼崎穂高. Special Report IHE-RO: Current status and problem (IHE-ROの現状と問題点) 臨床医およびJASTROデータベース委員会の立場から, *日放腫会誌*, 21 (1), 49-53, 2009.

Yogo A., Sato K., Nishikino M., Mori M., Teshima T., Numasaki H., Murakami M., Demizu Y., Akagi S., Nagayama S., Ogura K., Sagisaka A., Orimo S., Nishiuchi M A., S. Pirozhkov Ikegami M., Tampo M., Sakaki H., Suzuki M., Daito I., Oishi Y., Sugiyama H., Kiriya H., Okada H., Kanazawa S.,

Kondo S., Shimomura T., Nakai Y., Tanoue M., Sasao H., Wakai D., P. R. Bolton, and Daido H.

Application of laser-accelerated protons to the demonstration of DNA double-strand breaks in human cancer cells, *Appl. Phys. Lett.*, 94 (18), 1502, 2009.

Ozawa S., Tachimori Y., Baba H., Matsubara H., Muro K., Numasaki H., Oyama T., Shinoda M., Takeuchi H., Tanaka O., Teshima T., Udagawa H., Uno T., Yamana H., Konishi T., and J. P. Barron. Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2001, *Esophagus*, 6 (2), 95-110, 2009.

Numasaki H., Teshima T., Shibuya H., Nishio M., Ikeda H., Ito H., Sekiguchi K., Kamikonya N., Koizumi M., Tago M., Nagata Y., Masaki H., Nishimura T., Yamada S., and JASTRO Database Committee. National Structure of Radiation Oncology in Japan with Special Reference to Designated Cancer Care Hospital, *Int. J. Clin. Oncol.*, 14 (3), 237-244, 2009.

Kenjo M., Uno T., Murakami Y., Nagata Y., Oguchi M., Saito S., Numasaki H., Teshima T., and Mitsumori M. Radiation therapy for esophageal cancer in Japan: Results of the Patterns of Care Study 1999-2001, *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.*, 75 (2), 357-363, 2009.

Mukumoto N., Tsujii K., Saito S., Yasunaga M., Takegawa H., Yamamoto T., Numasaki H., and Teshima T. A preliminary study for in-house Monte Carlo simulations: An integrated Monte Carlo verification system, *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.*, 75 (2), 571-579, 2009.

手島昭樹, 沼崎穂高, 渋谷均, 西尾正道, 池田恢, 関口建次, 上紺屋憲彦, 小泉雅彦, 多湖正夫, 安藤裕, 塚本信宏, 寺原敦朗, 中村和正, 光森通英, 西村哲夫, 晴山雅人, JASTROデータベース委員

会. 全国放射線治療施設の2007年定期構造調査報告 (第1報). *日放腫会誌*, 23 (3・4), 113-125, 2009.

手島昭樹, 沼崎穂高, 渋谷均, 西尾正道, 池田恢, 関口建次, 上紺屋憲彦, 小泉雅彦, 多湖正夫, 安藤裕, 塚本信宏, 寺原敦朗, 中村和正, 光森通英, 西村哲夫, 晴山雅人, JASTROデータベース委員会. 全国放射線治療施設の2007年定期構造調査報告 (第2報). *日放腫会誌*, 23 (3・4), 127-138, 2009.

Teshima T., Numasaki H., Shibuya H., Nishio M., Ikeda H., Sekiguchi K., Kamikonya N., Koizumi M., Tago M., Ando Y., Tsukamoto N., Terahara A., Nakamura K., Mitsumori M., Nishimura T., Hareyama M., and Japanese Society of Therapeutic Radiology and Oncology Database Committee, *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* (in press).

2. 学会発表

沼崎穂高. ワークショップ2 放射線腫瘍学の情報系整備と活用 診療の質評価のための米国National Cancer Databaseの現状と課題, 日本放射線腫瘍学会第22回学術大会 (京都), 2009/9/18.

沼崎穂高, 手島昭樹, 池田恢, 上紺屋憲彦, 小泉雅彦, 村上昌雄, 光森通英, JASTRO データベース委員会. 放射線腫瘍学広域データベースの開発と運用, 第293回日本医学放射線学会関西地方会 (大阪), 2009/10/17.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）
（分担）研究報告書

がんの診療データベースとJapanese National Cancer Database (JNCDB) の構築と運用

（分担）研究者 寺原 敦朗 東京大学医学部附属病院放射線科講師

研究要旨 JNCDBデータ入力を通じて、日本の臨床現場におけるデータベース入力およびがん登録の問題点が再認識され、データ入力の標準化、専門スタッフの育成などの必要性が明らかとなった。またデータベース導入に関してベンダーと協議検討を行った。

A. 研究目的

JNCDB feasibility studyに協力参加し、その運用にあたっての問題点を探る。また、前年度に視察したIMPAC社のデータベース製品の導入に関して、ベンダーと協議交渉を行う。

B. 研究方法

JNCDBに関しては、当施設にて使用している診療科DBを一部改変し、可及的に連携が図れるようにした上で、実際の入力を行い、提出するとともに、その問題点について検討した。その問題点も踏まえ、IMPAC社のMOSAIQの当部門への導入について、ELEKTA (CMS)社と交渉、協議を行った。

（倫理面への配慮）

JNCDB feasibility studyにおいては、データの匿名化を行って提出しており、個人情報保護の点においても問題ない。

C. 研究結果

JNCDBへの入力にあたっては、当施設における診療科DBと構造が大きく異なり、連携に多大な労力を要することが判明した。可及的に連携可能となるように診療科DBの改変を一部行い、必要なデータを抽出、さらにスタッフによって各論文データの追加入力を行い、提出した。MOSAIQの導入については、HISとの連携など、日本独自の解決すべき問題点もあり、企画運営情報部とも連携をとりつつ、導入を検討した。

D. 考察

JNCDBへのデータ入力においては、入力者による項目選択のばらつきが多く認められ、データの信頼性に問題があった。項目選択の基準をきちんと定めること、また十分な訓練を受けて知識のある専門スタッフによる統一された

入力が必要であることがあらためて明らかとなった。MOSAIQ導入のメリットも大きいと思われるが、そのためには、解決すべき問題点が多い。

E. 結論

JNCDBを信頼性の高いデータベースとするためには、専門のスタッフを育て、統一された入力作業による信頼性の高いデータ入力およびベンダーの協力も得て、MOSAIQ等のすぐれたシステムの導入が必要と思われる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

寺原敦朗, 沼崎穂高: IHE-R0の現状と問題点 臨床医およびJASTROデータベース委員会の立場から. 日放腫会誌 21(1): 49-53, 2009.

中村直樹, 寺原敦朗: がん治療の臨床最前線放射線治療を中心に 頭頸部がんわが国の局所進行頭頸部がんに対するCRTの現状. INNERVISION 24: 25-27, 2009.

2. 学会発表

寺原敦朗, 芳賀昭弘, 伊藤さおり, 笹野伸史, 白石憲史郎, 山下英臣, 大熊加恵, 中川恵一. ERGO VMATを用いた頭頸部IMRTの初期経験. 日本放射線腫瘍学会第22回学術大会. 2009. 9. 京都

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特記すべきことなし

厚生労働科学研究費補助金(第3次対がん総合戦略研究事業)

分担研究報告書

がんの診療データベースと Japanese National Cancer Database(JNCDB)の構築と運用

(分担)研究者 佐々木 茂 信州大学医学部助教

研究要旨

本邦におけるがん診療の構造(医療従事者、設備)および診療課程の実態を把握し、適正な診療体系を構築するためのデータベース作りを行う。特に、臓器別がん登録とモダリティ別のデータベースの有機的連携を図る。

A. 研究目的

がん診療評価において、治療結果を公平・迅速に評価するために、患者の視点から最も重要な個々の医療機関、診療従事者によるがん患者の治療成績に重点を置き、実際の患者の診療内容についての国全体のがん情報データベース Japanese National Cancer Database(JNCDB)を構築し運用する。それによってがんの実態を把握し、情報発信を行う。

B. 研究方法

登録施設において、本研究班で開発した症例登録ソフトを用いて登録事項を入力し、さらに専用ソフト(ハッシュ関数による匿名化方法)を用いて個人情報の匿名化を行ったデータをコピーしたCD-Rに保存しJNCDB事務局へ送付する。

(倫理面への配慮) 収集項目に関して、個人情報となる患者基本情報は連結可能匿名化し収集するが、元データと匿名化データの対応表は各医療施設のみ保有することとし、施設外に出さないようにする。

C. 研究成果

乳癌症例は9施設から411症例が登録された。JPCSで集積されたデータと比較すると、乳房温存療法において断端陽性例に対する腫瘍床へのブースト照射の施行率や全乳房照射線量50 Gy/25回の頻度が上昇して

いた。

D. 考察

各施設HISやRISなど、ある程度のデータベースがあっても、CSVの様な形で外部出力できないとデータを入手するのは難しい。電子カルテ導入の際に外部出力を考慮したシステムを構築しなければならない。院内がん登録や地域がん登録との連携も含めて新しいシステム導入の際に考えなければならない。

E. 結論

本邦におけるがん診療の構造・課程・結果を把握するためのデータベースを構築する基盤が整備された。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表:なし

2. 学会発表:なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得:なし

2. 実用新案登録:なし

3. その他:なし

Ⅲ.研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
内藤誠二, 三木恒治, 他	前立腺がん検診 ガイドライン	日本泌尿器科学会	前立腺がん検診 ガイドライン	金原出版		2010	
大山優, 角美奈子, 他	中枢神経系腫瘍.	佐藤隆美, 藤原康弘, 古瀬純治, 大山優	がん治療エッセ ンシャルガイド	金原出版		2009	
鹿間直人, 他 (編)	放射線療法	監修 園尾博司 鹿間直人 他編	これからの乳癌 診療. 2009-2010	金原出版	東京	2009	71

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Teshima T., Numasaki H., Koizumi M., Ando Y., Tsukamoto N., Terahara A., Nakamura K., Mitsumori M., et al. Japanese society of therapeutic radiology and oncology database committee.	Japanese structure of radiation oncology in 2007 based on institutional stratification of Patterns of Care Study.	Int. J. Radiat.Oncol. Biol. Phys.,	(in press)		2010
Numasaki H., Teshima T., Koizumi M., et al. Japanese society of therapeutic radiology and oncology database committee.	National structure of radiation oncology in Japan with special reference to designated cancer care hospitals.	Int. J. Clin. Oncol.	14	237-44	2009
Ozawa S., Tachimori Y., Numasaki H., Teshima T., Uno T., et al. The registration committee for esophageal cancer.	Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2001	The Japan Esophageal Society	6	95-110	2009
Ide H., Tachimori Y., Teshima T., Numasaki H., et al.	Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2000.	Esophagus	6(1)	27-47	2009
Yogo A., Teshima T., Numasaki H., et al.	Application of laser-accelerated protons to the demonstration of DNA double-strand breaks in human cancer cells.	Applied Physics Letter	94(18)	1502	2009
Yoshioka Y., Teshima T., Koizumi M., et al.	External-beam radiotherapy for clinically localized prostate cancer in Osaka, Japan, 1995-2006:time trends, outcome, and risk stratification.	Strahlenther Onkol.	185(7)	446-52	2009
Kenjo M., Uno T., Numasaki H., Teshima T., Mitsumori M., et al.	Radiation therapy for esophageal cancer in Japan: Results of the Patterns of Care Study 1999-2001.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	75(2)	357-63	2009

Akino Y., <u>Teshima T.</u> , et al.	Carbon-ion beam irradiation effectively suppresses migration and invasion of human non-small-cell lung cancer cells.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	75(2)	475-481	2009
Mukumoto N., <u>Numasaki H.</u> , <u>Teshima T.</u> , et al.	A preliminary study of in-house Monte Carlo simulations: An integrated Monte Carlo verification system.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	75(2)	571-579	2009
Sasaki T., <u>Nakamura K.</u> , <u>Ogawa K.</u> , <u>Onishi H.</u> , <u>Koizumi M.</u> , <u>Mitsumori M.</u> , <u>Teshima T.</u> , et al.	Radiotherapy for patients with localized hormone-refractory prostate cancer: results of the Patterns of Care Study in Japan.	BJU Int.	104(10)	1462-6	2009
<u>Ogawa K.</u> , <u>Nakamura K.</u> , <u>Onishi H.</u> , <u>Koizumi M.</u> , <u>Mitsumori M.</u> , <u>Teshima T.</u> , et al. Japanese patterns of care study working subgroup of prostate cancer.	External beam radiotherapy for clinically localized hormone-refractory prostate cancer: clinical significance of Nadir prostate-specific antigen value within 12 months.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	74	759-65	2009
<u>Nakamura K.</u> , <u>Ogawa K.</u> , <u>Onishi H.</u> , <u>Koizumi M.</u> , <u>Mitsumori M.</u> , <u>Teshima T.</u> , et al. and Japanese patterns of care study working subgroup of prostate cancer.	Patterns of radiation treatment planning for localized prostate cancer in Japan: 2003-2005 Patterns of care study report.	Jpn. J. Clin. Oncol.	39(12)	820-4	2009
<u>Ogawa K.</u> , <u>Nakamura K.</u> , <u>Onishi H.</u> , <u>Koizumi M.</u> , <u>Mitsumori M.</u> , <u>Teshima T.</u> , et al.	Postoperative radiotherapy for localized prostate cancer: clinical significance of nadir prostate-specific antigen value within 12 Months.	Anticancer Res.	29(1)	4605-13	2009
手島昭樹, 沼崎穂高, 小泉雅彦, 安藤裕, 塚本信宏, 寺原敦朗, 中村和正, 光森通英, 他 JASTROデータベース委員会.	全国放射線治療施設の2007年定期構造調査報告 (第1報)	日放腫会誌	21	113-125	2009
手島昭樹, 沼崎穂高, 小泉雅彦, 安藤裕, 塚本信宏, 寺原敦朗, 中村和正, 光森通英, 他 JASTROデータベース委員会.	全国放射線治療施設の2007年定期構造調査報告 (第2報)	日放腫会誌	21	127-138	2009
手島昭樹, 光森通英. 日本PCS作業部会	Patterns of Care Study (PCS) 特集: がん放射線療法 of 進歩と展望	最新医学	64	1123-1128	2009
手島昭樹, 安藤裕.	IHE-ROの現状と問題点 特集 IHE-ROの現状と問題点	日放腫会誌	21	28	2009
手島昭樹, 山本時裕.	特集 医学物理士の養成~放射線治療高度化で急務に~米国に学ぶ医学物理士の養成・活用法.	原子力eye	54(10)	16-20	2008

Okada K., <u>Miki T.</u> , et al	Predicting factors for positive repeat biopsy in community-based prostate cancer screening in Japan.	Int. J. Urol.	(in press)		
<u>Miki T.</u> , et al.	Post-chemotherapy nerve-sparing retroperitoneal lymph node dissection for advanced germ cell tumor.	Int. J. Urol.	16	379-382	2009
Suzuki K., <u>Miki T.</u> , et al.	Histologic and Electrophysiological study of nerve regeneration using a polyglycolic acid-collagen nerve conduit filled with collagen sponge in canine model.	Urology	74	958-963	2009
Okihara K., Miki T., et al.	Transrectal ultrasound navigation during minilaparotomy retropubic radical prostatectomy: impact on positive margin rates and prediction of earlier return to urinary continence.	Int. J. Urol.	16	820-5	2009
Tamura K., <u>Miki T.</u> , et al.	Novel lipogenic enzyme ELOVL7 is involved in prostate cancer growth through saturated long-chain fatty acid metabolism.	Cancer Res.	69	8133-8140	2009
Shiraishi T., <u>Miki T.</u> , et al.	Salvage chemotherapy with paclitaxel and gemcitabine plus nedaplatin(TGN) as part of multidisciplinary therapy in patients with heavily pretreated cisplatin-refractory germ cell tumors.	Int. J. Clin. Oncol.	14	436-441	2009
Nonomura N., <u>Miki T.</u> , et al.	Brain metastases from testicular germ cell tumors: a retrospective analysis.	Int. J. Urol.	16:	887-893	2009
Kobayashi Y., <u>Tachimori Y.</u> , et al.,	Histological diversity in basaloid squamous cell carcinoma of the esophagus.	Dis. Esophagus.	22	231-8	2009
<u>Tachimori Y.</u>	Salvage esophagectomy after high-dose chemoradiotherapy for esophageal squamous cell carcinoma.	J. Thorac. Cardiovas. Surg.	137	49-54	2009
<u>Tachimori Y.</u>	Role of salvage esophagectomy after definitive chemoradiotherapy.	Gen. Thorac. Cardiovasc. Surg.	57	71-8	2009
Tanioka M., <u>Kasamatsu T.</u> , et al.	Clinical characteristics and outcomes of women withstage IV endometrial Cancer.	Med. Oncol..	(in press)		2010

Iura A., <u>Kasamatsu T.</u> , et al.	Serous adenocarcinoma of the retroperitoneum, as a type of multifocal mullerian carcinoma	Int. J. Clin. Oncol.	14(3)	254-7,	2009
Uehara T., <u>Kasamatsu T.</u> , et al.	A case of vaginal clear cell adenocarcinoma complicated with congenital anomalies of the genitourinary tract and metanephric remnant without prenatal diethylstilbestrol (DES) exposure	Int. J. Obstet. Gynaecol. Res.,	(in press)		2009
<u>Kasamatsu T.</u> , et al.	Prognostic significance of positive peritoneal cytology in adenocarcinoma of the uterine cervix.	Gynecol. Oncol.	115	488-492	2009
<u>Kasamatsu T.</u> , et al.	Radical hysterectomy for FIGO stage IIB cervical cancer: clinicopathological characteristics and prognostic evaluation.	Gynecol. Oncol.	114	69-74	2009
<u>Kasamatsu T.</u> , et al.	Radical hysterectomy for FIGO stage I-IIB adenocarcinoma of the uterine cervix	Br. J. Cancer	100	1400-5	2009
Nishio S., <u>Kasamatsu T.</u> , et al.	Usefulness of third-line chemotherapy for women with recurrent ovarian, fallopian tube, and primary peritoneal cancer who receive platinum/taxane regimens as first-line therapy	J. Cancer Res. Clin. Oncol.	135	551-7	2009
Nishio S., <u>Kasamatsu T.</u> , et al.	Clinicopathological significance of cervical adenocarcinoma associated with lobular endocervical glandular hyperplasia	Pathol. Res. Pract.	205(5)	331-7	2009
Hasebe T., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	P53 expression in tumor-stromal fibroblasts is closely associated with the nodal metastasis and outcome of patients with invasive ductal carcinoma who received neoadjuvant therapy.	Human Pathology	(in press)		2009
Akagi T., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	Clinical and pathological features of intracystic papillary carcinoma of the breast.	Surgery Today	39(1)	5-8	2009
Shien T., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	Comparison among different classification systems regarding the pathological response of preoperative chemotherapy in relation to the long-term outcome.	Breast Cancer Res. Treat.	113	307-313	2009

Shien T., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	Clinicopathological features of tumors as predictors of the efficacy of primary neoadjuvant chemotherapy for operable breast cancer.	World Journal of Surgery	33	44-51	2009
Yonemori K., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	Immunohistochemical expression of PTEN and phosphorylated Akt are not correlated with clinical outcome in breast cancer patients treated with trasutuzumab-containing neo-adjuvant chemotherapy.	Med. Oncol.	26	344-349	2009
Akashi-Tanaka S., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	21-Gene expression profile on core needle biopsies predicts responses to neoadjuvant endocrine therapy in breast cancer patients.	The Breast	18	171-174	2009
Akashi-Tanaka S., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	Whole-breast volume perfusion images using 256-row multislice computed tomography: visualization of lesions with ductal spread.	Breast Cancer	16	62-67	2009
Yoshida M., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	A case of ductal carcinoma in situ of the breast.	Jpn. J. Clin. Oncol.	39(2)	132	2009
Hojo T., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	Primary small cell carcinoma of the breast.	Breast Cancer	16	68-71	2009
Shien T., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	Usefulness of preoperative multidetector-row computed tomography in evaluating the extent of invasive lobular carcinoma in patients with or without neoadjuvant chemotherapy.	Breast Cancer	16	30-36	2009
Tamura N., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	Tumor histology in lymph vessels and lymph nodes for the accurate prediction of outcome among breast cancer patients treated with neoadjuvant chemotherapy.	Cancer Science	100(10)	1823-1833	2009
Hasebe T., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	P53 expression in tumor stromal fibroblasts is associated with the outcome of patients with invasive carcinoma of the breast.	Cancer Science	100(11)	2101-2108	2009
Shien T., <u>Kinoshita T.</u> , et al.	Primary tumor resection improves the survival of younger patients with metastatic breast cancer.	Oncology Reports	21	827-832	2009
木下貴之.	乳癌	治療	91(10)	2476-2482	2009
木下貴之, 他.	術前化学療法後のセンチネルリンパ節生検の現状と展望.	乳癌の臨床	24(1)	71-76	2009

木下貴之.	術前薬物療法；最近の知見.	Pharma Medica	27(2)	21-25	2009
木下貴之.	乳癌治療における画像診断の役割－術前化学療法と画像診断－.	日獨医報	54(2)	136-142	2009
菊山みずほ, 木下貴之.	若年男性乳癌の1例.	手術	63(11)	1735-1739	2009
Sawabata N., Goya A., et al.	Japanese lung cancer registry study demographics and prognoses of 14,695 patients who were diagnosed in 2002 and followed-up prospectively for 5 years.	J. Thorac Oncol.	(in press)		
Okami J. Goya T., et al.	Pulmonary resection in patients aged 80 years or over with clinical stage I non-small cell lung cancer: Prognostic factors for overall survival and risk factors for postoperative complications.	J Thorac Oncol.	4	1247-1253	2009
Nishimura Y., Mitsumori M., et al.	A randomized phase II study of cisplatin/5-FU concurrent chemoradiotherapy for esophageal cancer: Short-term infusion versus protracted infusion chemotherapy (KROSG0101/JROSG021).	Radiother Oncol.	92	260-265	2009
Mitsumori M., et al.	Impact of radiation therapy on breast-conserving therapy for breast cancer in Japanese women: a retrospective analyses of multi-institutional experience. Kansai breast cancer radiation therapy study group.	Oncol. Rep.	21	1461-1466	2009
Matsumoto K., Mitsumori M., et al.	Questionnaire survey of treatment choice for breast cancer patients with brain metastasis in Japan: results of a nationwide survey by the task force of the Japanese Breast Cancer Society.	Jpn. J. Clin. Oncol.	39	22-26	2009
Fujimoto N., Sumi M., et al.	Relation between elective nodal failure and Irradiated volume in non-small-cell lung cancer (NSCLC) treated with radiotherapy using conventional fields and doses.	Radiother. and Oncol.	91	433-437	2009
Sekine I., Sumi M., et al.	Gender difference in treatment outcomes in patients with stage III non-small cell lung cancer receiving concurrent Chemoradiotherapy.	Jpn. J. Clin. Oncol.	39(11)	707-12	2009

Itami J., <u>Sumi M.</u> , et al.	High-Dose-Rate brachytherapy alone in postoperative soft tissue sarcomas with close/positive margins.	Brachytherapy	(in press)		2009
<u>Kodaira T.</u> , <u>Toita T.</u> , <u>Uno T.</u> , <u>Teshima T.</u> , <u>Mitsumori M.</u> , et al.	Japanese Patterns of Care Study of Definitive Radiotherapy for Cervical Carcinoma among Three Surveys.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	75	S375	2009
<u>Toita T.</u>	Current status and perspectives of brachytherapy for cervical cancer.	Int. J. Clin. Oncol.	14	25-30	2009
Gaffney DK., <u>Toita T.</u> , et al.	Patterns of care for radiotherapy in vulvar cancer: a Gynecologic Cancer Intergroup study.	Int. J. Gynecol. Cancer	19	163-7	2009
<u>Toita T.</u> , et al.	Quality assurance in the prospective multi- institutional trial on definitive radiotherapy using high-dose-rate intracavitary brachytherapy for uterine cervical cancer: the individual case review.	Jpn. J. Clin. Oncol.	39(12)	813-9	2009
Tomita N., <u>Kodaira T.</u> , et al.	Long-term follow-up and a detailed prognostic analysis of patients with oropharyngeal cancer treated with radiotherapy.	J. Cancer. Res. Clin. Oncol.	(in press)		
<u>Kodaira T.</u> , et al.	Prospective study of alternating chemoradiotherapy consisted of extended-field dynamic conformational radiotherapy and systemic chemotherapy using 5FU and Nedaplatin for patients with high-risk group of cervical carcinoma.	Int. J. of Radiat. Oncol. Biol. Phys.	73(1)	251-258	2009
<u>Kodaira T.</u> , et al.	Aichi Cancer Center initial experience of intensity modulated radiation therapy for nasopharyngeal cancer using helical tomotherapy.	Int. J. of Radiat. Oncol. Biol. Phys.	73(4)	1135-1140	2009
Ariji Y., <u>Kodaira T.</u> , et al.	False-positive positron emission tomography appearance with 18F-fluorodeoxyglucose after definitive radiotherapy for cancer of the mobile tongue.	Br. J. Radiol.	82(973)	e3-7	2009
Tomita N., <u>Kodaira T.</u> , et al.	A.Favorable outcomes of radiotherapy for early-stage mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma.	Radiother Oncol.	90(2)	231-235	2009
Nakamura T., <u>Kodaira T.</u> , et al.	Determination of the irradiation field for clinical T1-T3N0M0 thoracic/abdominal esophageal cancer based on the postoperative pathological results.	Jpn. J. of Clin. Oncol.	39(2)	86-91	2009

Tomita N., <u>Kodaira T.</u> , et al.	Dynamic conformal arc radiotherapy with rectum hollow-out technique for localized prostate cancer.	Radiother Oncol.	90(3)	346-352	2009
Tomita N., <u>Kodaira T.</u> , et al.	A comparison of radiation treatment plans using IMRT with helical tomotherapy and 3D conformal radiotherapy for nasal natural killer/T-cell lymphoma.	Br. J. Radiol.	82(981)	756-63	2009
Nakamura T., <u>Kodaira T.</u> , et al.	Clinical outcome of oropharyngeal carcinoma treated with platinum-based chemoradiotherapy.	Oral, Oncol.	45(9)	830-4	2009
Tomita N., <u>Kodaira T.</u> , et al.	Early salvage radiotherapy for patients with PSA relapse after radical prostatectomy.	J. Cancer Res. Clin. Oncol.	135(11)	1561-7	2009
<u>Toita T.</u> , <u>Kodaira T.</u> , <u>Shikama N.</u> , <u>Kenjo M.</u> , <u>Teshima T.</u> , et al.	Quality assurance in the prospective multi-institutional trial on definitive radiotherapy using high-dose-rate intracavitary brachytherapy for uterine cervical cancer: The individual case review.	Jpn. J. Clin. Oncol.	39(12)	813-19	2009
Kato H., <u>Kodaira T.</u> , et al.	Favorable consolidative effect of high-dose melphalan and total-body irradiation followed by autologous peripheral blood stem cell transplantation after rituximab-containing induction chemotherapy with in vivo purging in relapsed or refractory follicular lymphoma.	Clinical Lymphoma & Myeloma	(6)	443-448	2009
<u>古平毅.</u>	「進化する放射線療法最新事情」トモセラピーによるIMRT(強度変調放射線治療)の実際.	がん患者ケア	2(3)	20-25	2009
<u>古平毅 他.</u>	21回 JASTRO シンポジウム特集「IMRTの標準化に向けて」Tomotherapyを用いた強度変調放射線治療の実際.	臨床放射線	54(5)	595-602	2009
<u>古平毅.</u>	がん放射線療法の進歩と展望 各論 頭頸部癌 治療精度の向上と QOL の改善をめざして.	最新医学	64(6)	1163-1170	2009
<u>古平毅 他.</u>	臨床 Topics IMRT 専用機 Tomotherapy の臨床的評価.	Cancer Frontier	11	180-187	2009
<u>古平毅 他.</u>	シンポジウム 強度変調放射線治療(IMRT)の中長期成績 -Tomotherapyを用いた強度変調放射線治療の治療成績と展望-.	頭頸部癌	35(3)	240-244	2009

古平毅 他.	総説 喉頭癌・副鼻腔癌の放射線治療.	臨床放射線	54(10)	1217-1226	2009
古平毅.	X 章 転移 2 転移・再発の治療 f 大腸がんに対する放射線治療 あなたを守る大腸癌ベスト治療.	昭和堂			2009
Kenjo M., Numasaki H., Teshima T., Mitsumori M., et al.	Analysis of the factors which affect on the nodal area irradiation for esophageal cancer: Results of the patterns of care study in Japan.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	75	S289	2009
Katamura Y., Kenjo M., et al.	Intra-arterial 5-fluorouracil / interferon combination therapy for advanced hepatocellular carcinoma with or without three-dimensional conformal radiotherapy for portal vein tumor thrombosis.	J Gastroenterol.	44(5)	492-502	2009
Sugiyama K., Kenjo M., et al.	Quality of life of extremely long-time germinoma survivors mainly treated with radiotherapy.	Prog. Neurol. Surg.	23	130-9	2009
小口正彦、鹿間直人.	放射線療法.	乳癌の臨床	24	47-53	2009
鹿間直人, 他.	放射線術後 照射.	乳癌の臨床	24	435-441	2009
鹿間直人.	がん放射線療法の進歩と展望 乳がんの放射線治療	最新医学	64	1191-5	2009
中村直樹、鹿間直人.	治療計画と照射線量	臨床放射線 乳癌の診断と治療 Update	54	217-23	2009
関口建次、鹿間直人.	乳房温存照射法 その適応と限界	臨床放射線 乳癌の診断と治療 Update	54	209-16	2009
山内智香子、鹿間直人.	PCS によるわが国の放射線療法 の現状と JROSG の活動について	臨床放射線 乳癌の診断と治療 Update	54	277-84	2009
Sakayauchi T., Onishi H., Sasaki S., et al.	Comparison of cisplatin and 5-fluorouracil chemotherapy protocols combined with concurrent radiotherapy for esophageal cancer.	Jpn. J. Radiol.	27	131-7	2009
Inoue T., Onishi H., et al.	Clinical outcomes of stereotactic body radiotherapy for small lung lesions clinically diagnosed as primary lung cancer on radiologic examination.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	75	683-7	2009
Nagata Y., Onishi H., et al.	Survey of stereotactic body radiation therapy in Japan by the Japan 3-D Conformal External Beam Radiotherapy Group.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	75	343-7	2009

Isohashi F., <u>Koizumi M.</u> , et al.	Rectal dose and source strength of the high-dose-rate iridium-192 both affect late rectal bleeding after intracavitary radiation therapy for uterine cervical carcinoma.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	Oct. 14,		2009
Utsumi T., <u>Koizumi M.</u> , et al.	Postoperative radiation therapy after complete resection of thymoma has little impact on survival.	Cancer.	115(23)	5413-20	2009
Isohashi F., <u>Koizumi M.</u> , et al.	High-dose-rate interstitial brachytherapy for previously untreated cervical carcinoma.	Brachytherapy	8(2)	234-9	2009
Yamazaki H., <u>Koizumi M.</u> , et al.	Assessment of influence of smoking, drinking, leukoplakia and dental irritation on local control of early oral tongue carcinoma treated with brachytherapy: age and dental factors are potential prognostic factors.	Tumori	95(4)	461-6	2009
Sumida I., <u>Koizumi M.</u> , et al.	Verification of air-kerma strength of 125I seed for permanent prostate implants in Japan.	Int. J. Clin. Oncol.	14(6)	525-8	2009
Miyashita M., <u>Nakagawa K.</u> , et al.	Inter-rater reliability of proxy simple symptom assessment scale between physician and nurse: a hospital-based palliative care team setting.	European Journal of Cancer Care	19(1)	124-30	2010
<u>Nakagawa K.</u> , <u>Terahara A.</u> , et al.	First clinical cone-beam CT imaging during volumetric modulated arc therapy.	Radiother Oncol.	90	422-3	2009
Yamashita H., <u>Nakagawa K.</u> , et al.	Correlation among six biologic factors (p53, p21(WAF1), MIB-1, EGFR, HER2, and Bcl-2) and clinical outcomes after curative chemoradiation therapy in squamous cell cervical cancer.	Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.	74	1165-72	2009
Kan Y., Nakagawa K., et al.	Histological changes after single high-dose irradiation for squamous cell carcinoma arising from a burn scar.	Med. Oncol.	Feb 13		2009
Hashimoto M., <u>Nakagawa K.</u> , et al.	Dose profile measurement using an imaging plate: Evaluation of filters using Monte Carlo simulation of 4 MV x-rays.	Rev. Sci. Instrum.	80	045101	2009
Yamashita H., <u>Nakagawa K.</u> , et al.	Iatrogenic vulvar skin metastases after interstitial radiotherapy for recurrent cervical cancer.	J. Dermatol.	36(12)	663-5	2009

Mori-Uchino M., Nakagawa K., et al.	Enhanced transgene expression in the mouse skeletal muscle infected by the adeno-associated viral vector with the human elongation factor 1alpha promoter and a human chromatin insulator.	J. Gene. Med.	11	598-604	2009
Nakagawa K., Terahara A., et al.	First report on prostate displacements immediately before and after treatment relative to the position during VMAT delivery.	Acta. Oncol.	48(8)	1206-8	2009
Haga A., Nakagawa K., Terahara A., et al.	Quality assurance of volumetric modulated arc therapy using Elekta Synergy.	Acta. Oncol.	48	1193-7	2009
Igaki H., Terahara A., Nakagawa K., et al.	Stereotactic radiosurgery for skull base meningioma.	Neurol. Med. Chir.	49(10)	456-61	2009
Yamashita H., Nakagawa K., et al.	A retrospective comparison of clinical outcomes and quality of life measures between definitive chemoradiation alone and radical surgery for clinical stage II-III esophageal carcinoma.	J. Surg. Oncol.	100	435-41	2009
Yamashita H., Nakagawa K., et al.	Umami taste dysfunction in patients receiving radiotherapy for head and neck cancer.	Oral. Oncol.	45(3)	e19-23	2009
Igaki H., Nakagawa K., Terahara A., et al.	Contrast media-assisted visualization of brain metastases by kilovoltage cone-beam CT.	Acta. Oncologica	48(2)	314-7	2009
塚本信宏,	IHE-J ROの現状と方向性、	日本放射線腫瘍学会誌	Vol.21, No.1	38-40	2009
寺原敦朗, 沼崎穂高.	IHE-RO の現状と問題点 臨床医および JASTRO データベース委員会の立場から.	日本放射線腫瘍学会誌	21	49-53	2009
中村直樹, 寺原敦朗.	がん治療の臨床最前線放射線治療を中心に 頭頸部がんわが国の局所進行頭頸部がんに対するCRTの現状.	INNERVISION	24	25-27	2009
Koiwai K., Shikama N., Sasaki S., et al.	Risk factors for severe dysphasia after concurrent chemoradiotherapy for head and neck cancer.	Jpn. J. Clin. Oncol.	39	413-7	2009

市民公開講座 報告

市民公開講座

入場無料

がんになったあなたや家族が 今できること

日時：平成 22 年 1 月 31 日(日) 13:30 ~ 16:30

場所：東京大学 安田講堂 受付 13:00 より

司会：中川 恵一(東京大学医学部附属病院)

がん診療の司令塔 標準治療と先端医療 遺伝子研究



わが国を代表する豊富な講師陣

乳癌

子宮頸癌

食道癌

肺癌

前立腺癌

外科系



木下 貴之



笠松 高弘



日月 裕司



呉屋 朝幸



三木 恒治

放射線腫瘍学系



光森 通英



篠田 充功



権丈 雅浩



大西 洋



中村 和正

粒子線治療

がん情報

遺伝子研究



鎌田 正



手島 昭樹



吉田 輝彦

がんに関する質問をお受けします！

下記 HP にてアンケートを実施しています。
お受けした質問は全て担当の講師陣が後日 HP 上
で回答します。

https://www.jncdb.org/cancer_public_open_class/

主催：厚生労働科学研究(がん臨床研究)：「粒子線治療の有効性、適応、費用対効果に関する総合的研究」鎌田班

共催：財団法人 日本対がん協会、厚生労働省「がんに関する普及啓発懇談会」、

厚生労働科学研究費補助金「第3次対がん10ヵ年総合戦略研究事業」H19-3次がん-038:手島班、

厚生労働省がん研究助成金計画研究班(18-4)光森班、文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」(大阪大学・東京大学)

後援：読売新聞、毎日新聞社、朝日新聞社

確実にご入場いただくため予め必要事項をご記入の上、ホームページ・FAX・ハガキ・メールにて申し込みをお願いします。

お申し込み頂いた方には入場券をお送り致しますので当日忘れずにご持参下さい。

当日参加も受け付けますが、定員になり次第締め切ります。

お申し込み先：〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-7 大阪大学大学院医学系研究科・医用物理工学講座 手島昭樹 宛

FAX 06-6879-2570 (2575/2579) 担当/岡本佐智

E-mail: rad-onco@sahs.med.osaka-u.ac.jp

住所・氏名・お電話番号・参加希望人数をご記入下さい。

個別のご質問を記入いただいても結構です。回答は後日とさせていただきます。